

イエスが岸に立っておられた

ヨハネ 21 : 1 - 14



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年5月1日

復活節第3主日

上野聖ヨハネ教会にて

シモン・ペテロが「わたしは漁に行く」と言うと、他の弟子たちが「わたしたちも一緒に行こう」と答えました。

場所はティベリアス湖畔。ティベリアス湖とはガリラヤ湖の別名です。この弟子たちの故郷、またイエスさまの故郷の湖です。

一緒に漁に行った弟子たちの名前が記されています。

「シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子」ヨハネ 21:2

全部で7名です。

一晩中苦労しました。徒労でした。その晩は1匹も魚がとれなかったのです。

苦労してその結果が空しかったとき、体が疲れるのはもちろんですが精神的な疲労、失望が大きいものです。疲れ果てた弟子たちは、夜明けの湖の舟の中で、口をきく気力もなくへたり込んでいます。陸からは90メートルくらいの所です。

そのとき、岸边に立った人影があります。

「子たちよ、何か食べるものがあるか」

と呼びかける声が、岸に立ったその人から聞こえました。

「ありません」

と弟子たちは答えました。

「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」

そのようにすると、大量の魚が網にかかりました。一人が言いました。

「主だ！」

少し話を戻します。

「既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた」

ヨハネ 21:4

イエスはたまたまそこに立っておられたのではありません。この弟子たちを捜しに来られた。そして弟子たちを見つけて、そこに立たれたのです。

「子たちよ」と、岸から呼びかけられます。「子たちよ」とは何か。大の大人7人に向かって「子たちよ」とは何ごとでしょうか。不自然な言葉です。しかしイエスさまはこう呼びかけたかったのです。

わたしが愛してきた弟子たち。わたしを愛してくれた弟子たち。わたしを信じ従って、一緒に苦労した者たち。わたしのために苦しんでくれた者たち。たとえあなたがたが逃げ去ったとしても、わたしはあなたがたをけっして失うことはできない。わたしの大切な者たち。

「子たちよ」

この一語に、イエスの愛がこもっています。

ところで呼びかけられた舟の中の弟子たちとは、どんな人たちだったのでしょうか。7名のうち、5名は名前がわかっています。2節を見てみましょう。

シモン・ペトロ。彼はイエスが捕らえられたとき、後からこっそりについて行って大祭司の館の庭に入りました。「お前はイエスの仲間だろう」と問われたとき、「違う。そんな者は知らない」と言いました。最後の晩餐のときにイエスが言われたとおりに、3回もイエスを否んで、鶏が鳴くのを聞いて、泣いたのがペテロです。

ディディモと呼ばれるトマスとはだれか。彼は最後の晩餐のとき、「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちにはわかりません」と言いました（ヨハネ 14：5）。わからなくて不安で苦しみました。またイエスの復活を信じることができず、「その手に釘の跡を見なければ、そのわき腹にこの手を入れてみなければ決して信じない」と言ったのは彼でした（20：25）。信じられなくて迷って苦しんだのがトマスです。

ガリラヤのカナ出身のナタナエル。彼は最初フィリポからイエスのことを聞いたとき、「ナザレから何の良いものが出るか」と、あざけるようなことを言いました（ヨハネ 1：46）。

ゼベダイの子たち。ヤコブとヨハネの兄弟です。この二人は、イエスが栄光の座に着かれるとき、イエスの右と左に座らせてほしいと願い出て、他の弟子たちの怒りを買いしました（マルコ 10 : 37）。

このように見てくると、ペテロもトマスもナタナエルも、ヤコブもヨハネも、恥ずかしい過去を持っています。イエスさまの弟子にふさわしくない言葉を発し、ふさわしくない振る舞いをしてきた愚かな者たちです。

しかしその弟子たちをイエスは捜しに来られました。「子たちよ」と呼びかけられました。愚かな者たちがかわいい。過ちをおかす弟子たちがいとおい。

「子たちよ、何か食べる物があるか」

単に食べ物のあるなしを質問されたわけではありません。原文の意味合いはこんなふうです。「食べ物はないのか」「魚はとれなかったのではないか」。

イエスは、知らないから質問されたわけではありません。何もとれなかったに違いない。食べ物もなく、疲れ果てているに違いない——そのように弟子たちのことが気がかりで、尋ねられたのです。

その問いかけに対する弟子たちの返事は一言、「ない」でした。

弟子たちが岸に上がってみると、炭火がおこしてありました。近寄ると、冷えた体が温かい。炭火の上には魚がのせてありました。パンもありました。疲れ切った空腹の弟子たちのために、イエスは朝の食事を用意して待っていてくださったのです。弟子たちは、それがイエスであると、今ははっきりとわかっていました。

「今とった魚を何匹か持って来なさい」

「さあ、朝の食事をしなさい」

今日、イエスはわたしたちに近づいて立ち、「子たちよ」と呼びかけられます。

立派でない、恥ずかしい過去を持ち、疲れ、徒労と失望を味わうわたしたち。そのわたしたちを愛して、イエスはわたしたちを捜しに来てくださり、わたしたちに呼びかけて現状を尋ねてくださる。この朝、イエスさまはわたしたちのために火をおこし、朝の食事を用意して待っていてくださいました。それがわたしたちが共にいただく聖餐です。

祈ります。

主イエスさま、あなたはかつて疲れた弟子たちを気遣われた

ように、わたしたちのことも気遣ってくださいます。あなたがそばにおられることに気づかせてください。あなたの尊い命をいただくわたしたちを強めて、あなたの願いを行うわたしたちにしてください。わたしたちを愛してくださるあなたの名をほめたたえます。アーメン